

山田みやこの活動報告

令和3年11月14日(日)

第8回 生活困窮者自立支援全国研究交流大会に参加③(オンライン)

分科会2「子ども・若者支援は「孤独・孤立」にどう向き合うのか？」

パネラー① 古賀 正義氏(中央大学 教授)

社会の中で自分の居場所が見つからず孤立
ひきこもりの原因は複合的。不登校からの継続によるひきこもりより、卒論や就職等による移行(トランジション)の不安・危機が多数。本人の自己責任と切り捨て排除することなく、困難な課題に応じた包摂のためのセーフティネットを提供し続けることが必要。

パネラー② 小河 光治氏(公益財団法人あすのば 代表理事)

子どもの貧困対策センター「あすのば」設立 満6年を迎える

子どもの貧困がなくなる社会をつくるための活動

- ①調査・研究し、それに基づいた政策提言、法律改正を進める
- ②子どもを支える組織や人を支え、全国各地で充実した支援体制の確立
- ③子どもの自立に向け、物心両面での子どもたちへの直接支援

パネラー③ 西岡 正次氏(大阪地域職業訓練センター就労支援事業部)

就労支援の契機は

- ①健康や収入、教育(進路)、家族に関わる社会サービスの利用
- ②キャリア形成の孤独・孤立リスク
- ③職業生活(キャリア)の変動・転機
- ④働きながら歩むキャリアの模索・形成ステップの困難

そこで職業教育訓練と中小企業支援、就労支援の3事業部門を持ち、企業協働型職業訓練や働く場と連携した就労支援プログラムの開発・提携している。

登壇者④ 谷口 仁史氏(認定NPO法人 スチューデント・サポート・フェイス 代表理事) 「オンライン支援のこれから」

- 佐賀県内唯一の指定支援機関で各施策の連動性を高めるハブ機能、社会的孤立・排除を生まない支援体制の確立にむけた「協働型」「創造型」多職種連携によるアウトリーチを社会参加・自立に至るまでの「伴走型」支援。相談支援を届けるアウトリーチ(訪問支援)が重要。
- 多重に困難を抱える子ども・若者の支援には「環境」に対するアプローチも重要。お兄さん・お姉さんの支援員(ナナメの関係)を積極的に活用。
- どんな境遇の子ども・若者も見捨てない。
- 個人的資質や感覚、経験則に基づく支援ではなくエビデンスに基づいた根拠ある支援。
- 最初から答えを与えても効果は薄い。経験を伴いながら段階的に変化を。
- 現場から「縦割り」「形式主義」の突破を図った佐賀県における「一括同意方式」
- 実際の背景には社会問題に真摯に向き合う行政・民間双方の強い思いがある。
- 完璧な制度がない以上複数分野の支援事業が保管し高め合える仕組みこそ検討すべき。

佐賀県では

- さが若者サポートステーション。たけお若者サポートステーション
 - 佐賀県子ども・若者総合相談センター。佐賀県ひきこもり地域支援センター
 - 佐賀市生活自立支援センター。佐賀市青少年センター子ども・若者支援室
 - NPO法人スチューデント・サポート・フェイス
- これらの協働による継続的かつ包括的な自立支援の展開をしている。